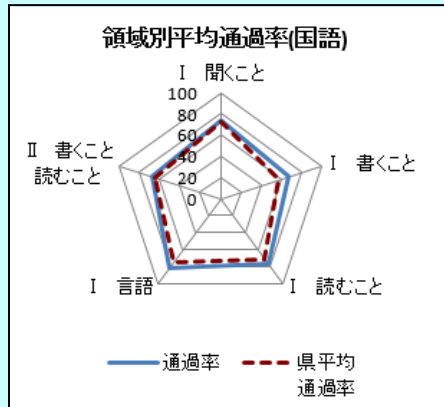
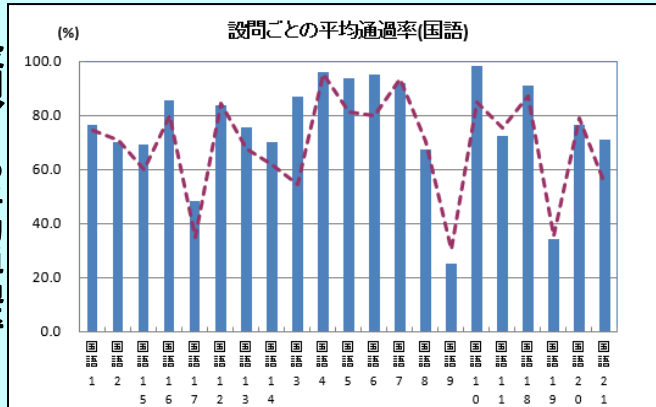


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 75.1%, 県 69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体の傾向について  
国語科の結果において、タイプⅠは76.8% (県70.4%)、タイプⅡは68.1% (県64.0%) の通過率になっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られているものと考えられる。タイプⅠでは、「書くこと」の「書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする (48.0% 県34.6%)」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「小3の漢字の書き (25.2% 県30.0%)」、タイプⅡでは「読むこと」の「要旨の把握」について課題があると考えられる。
- 昨年度の課題への取組の成果  
昨年度は「叙述の仕方 (34.5%)」、「根拠を明確にして自分の考えを書く (23.7)」に課題があった。そのため、文章中に用いられた言葉や表現に込められた心情や作者の意図を考え、自分の言葉で表現させる活動を設定し、読み取ったことを条件に合わせて表現を設定し、読み取ったことを条件に合わせて表現する学習や、自分の意見の根拠や理由づけに説得力があるかどうかを確かめられるような学習を取り入れるなど、読み取ったことを表現する活動を行った。今年度の通過率は69.1%、48.0%と改善傾向にあるので、引き続き継続して指導する。

### 重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

#### 【課題1】

○ 目的に応じて資料を読み、要旨を把握する問題 (五 (2)) において、通過率 34.1% (県 35.4%) であり、資料から必要な情報を取り出し、それを整理分析してまとめることに課題がある。

#### 【課題2】

◇ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことができる問題 (B2二) において、通過率が 71.6% (県 73.6%, 全国 74.2%) であった。聞き手の立場から資料の内容や提示のタイミングを考えることに課題がある。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

- 複数の資料を関連付けて意見形成を行うような必然性のある言語活動を設定する。その際、目的を明確にした上で情報が整理できるようにワークシートを工夫するとともに、キーワードをもとに要旨を捉えた表現活動を積極的に設定する。  
帯学習で行う視写の新聞記事を活用して、要約する学習を組み入れる。

#### 【課題2】

- ◇ 聞き手の立場に立ち、分かりやすく伝えるような説得力のあるスピーチを行う言語活動を設定する。自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して表現することを指導する。日常生活においても説得力のある話になるように、自分の意見と根拠、その理由を意識させる

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学年 2学期中間試験			全学年 熊野町標準学力調査		1・2学年 学年末試験
目標値		60.0%			65.0%		70.0%
実施後数値							

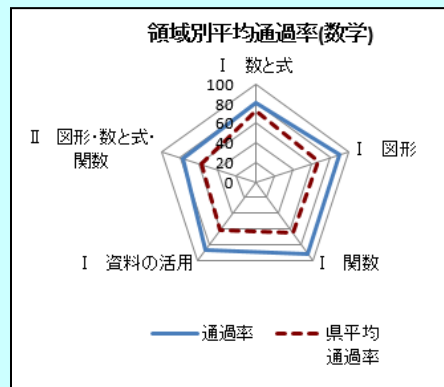
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2学年 2学期期末試験		全学年 熊野町標準学力調査		1・2学年 学年末試験
目標値			60.0%		65.0%		70.0%
実施後数値							

# 指導方法等の改善計画について [数学科]

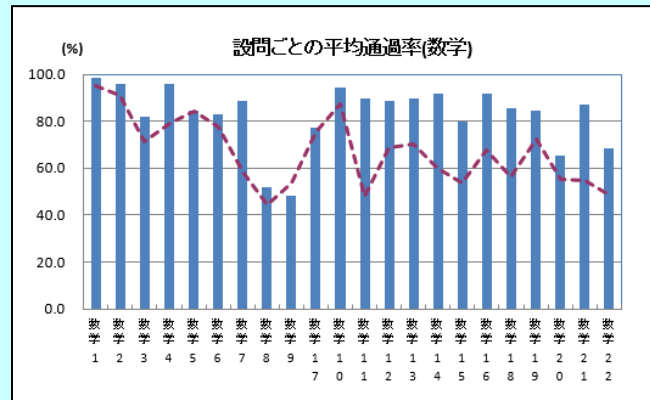
熊野町立熊野東中学校

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 82.8%, 県 66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体の傾向について  
数学の結果において、タイプⅠは84.2% (県69.7%)、タイプⅡは78.0% (県57.4%) の通過率になっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着していると考えられる。タイプⅠの平均通過率を領域別にみると、「数と式」82.3% (県72.9%)、「図形」89.1% (県68.1%)、「関数」85.8% (65.1%)、「資料の活用」84.6% (60.5%) であった。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、「関数」については継続して指導の改善が必要であるとする。
- 昨年度の課題への取組の成果  
昨年度は、与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができるかどうかをみる問題に課題があった。本年度もタイプⅡにおける説明する問題では、平均通過率が低い結果であった。そこで、少人数グループを活用してお互いに説明し合う場面を設けたりするなど、継続して指導をしていく。

## 重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

### 【課題1】

◎ 事象を式の意味に即して解釈し、その結果について考える問題、及び、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の通過率は、それぞれ 65.0%、68.3%であった。2つの数量の関係を読み取ったり、説明する方法がわからなかったりする生徒が多かった。(問題11 県55.4%、12 県48.4%)

### 【課題2】

◇ 与えられた説明と図から、ある図形をつくるために必要なストローの本数を文字式で表す解答する問題であったが、解答類型9の割合が50.7%と半数を超えた。事象の中の数量関係を読み取ることやそれを式に表すことが課題である。(B問題2(2) 本校42.5% 県45.1% 全国44.1%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題1】

○ 数量の関係を正しく捉えるために、文字が表す意味を具体的に述べさせたり、その文字に具体数を代入させて場面を捉えられたりするようにする。また説明する問題では、ともなう変わる2つの数量の関係の特徴を確認した上で、数学的な表現を用いて説明させる。その際、説明の話型を提示し、初めはそれに従って説明させる。

### 【課題2】

○ 数量関係を読み取るとき、または、読み取ったことを式に表すときに図や表を利用して情報を整理させる学習を取り入れる。今回の問題のようにストローが重なっているということは、図や表では把握できない生徒がいると考える。それについては、実際に物を操作したり、実験を行ったりして理解させるよう指導の工夫を行う。文字式の問題では、代入による確かめを行う習慣を身に付けさせる。

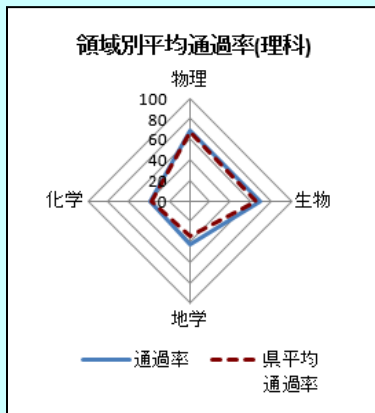
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					全学年 到達度テスト		1学年 学年末試験
目標値					60.0%		65.0%
実施後数値							

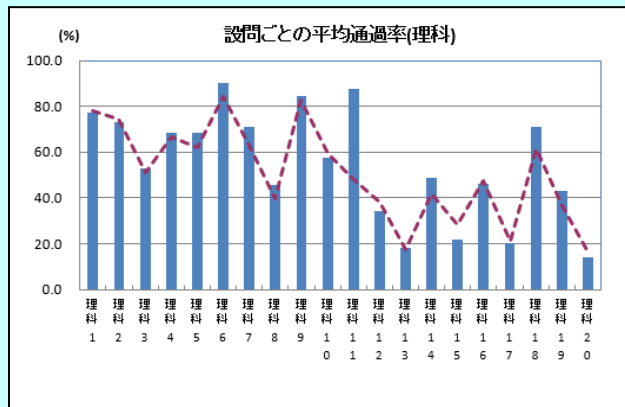
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2学年 2学期期末試験		全学年 到達度テスト		1, 2学年 学年末試験
目標値			60.0%		65.0%		65.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 54.7%， 県 50.8%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体の傾向について  
理科の結果において、タイプⅠは59.3%（県54.5%）、タイプⅡは47.8%（県45.3%）の通過率になっている。この結果から、タイプⅠについては概ね定着していると考えられるが、タイプⅡでは平均通過率が20%を下回る問題が2つもあり活用力の定着が不十分と言える。また、分野ごとの平均通過率に大きな差（生物と化学で31.0ポイントの差）がある。各分野でバランスよく観察実験の結果から考察や推測をする場面を増やす必要があると考える。
- 昨年度の課題への取組の成果  
昨年度は「結果を分析・解釈して考察をする力」に課題が見られた。そこで、探究の流れを授業に取り入れた。実験の結果から考察を行う場面では、実験結果を表やグラフでまとめ、視覚的に捉えさせようとして考察を行わせた。その結果として、考察を行うときに流れに沿った科学的な思考が少しはできるようになったが、今年度も県平均を下回っており課題である。

## 重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

### 【課題1】

◎ 観察結果から、地層の広がりについて考察することができていない生徒が78.0%（問題6（2） 本校22.0% 県28.4%）おり、結果を分析・解釈して考察をする力（科学的な思考・表現）の育成に課題がある。

### 【課題2】

◎ 実験結果を分析・解釈し、固体の量を変化させて加熱したときの温度変化の様子を推測できていない生徒が86.2%（問題8（2） 本校13.8% 県16.2%）おり、結果・考察から他の類似事例を推測する力（科学的な思考・表現）の育成に課題がある。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

### 【課題1】

◎ 理科の「探究の流れ」を授業に取り入れることで、「結果を分析・解釈して考察をする力」を育てていきたい。具体的な手立てとして、①実験の目的の確認、②観察・実験で得られた結果を表やグラフで表現、③目的に正対した考察をたてさせる、の3つの段階を踏ませることで、論理的に自然事象をとらえさせ、結果を分析・解釈して考察をする力をつけたい。

### 【課題2】

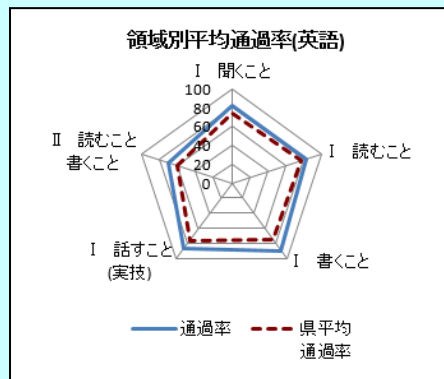
◎ 単元の学習後、同じ自然事象での類似問題を考えさせることで、既習事項から推測させる場面を増やし、結果から推測する力を育成したい。今回の問のように、固体の量が半分になったでは、融点が変わらないことは理解できているが、時間がどうなるかが推測できていない生徒が多い。実験後には、推測させるための発問を準備し、生徒が推測する場面を設定する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					2学年 熊野町標準学力調査		2学年 学年末試験
目標値					65.0%		70.0%
実施後数値							

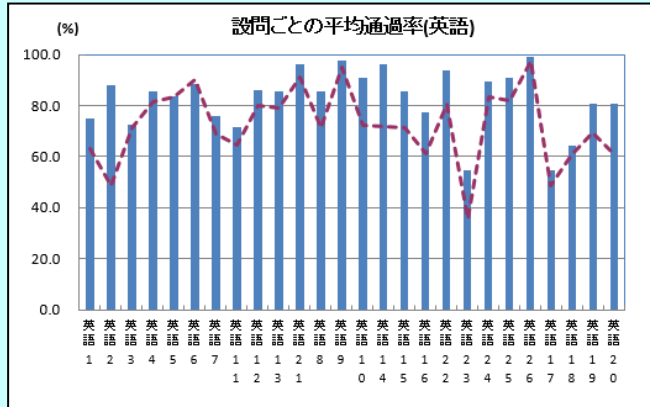
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2学年 2学期期末試験		2学年 熊野町標準学力調査		2学年 学年末試験
目標値			70.0%		65.0%		75.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 82.6%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向について  
英語の結果において、タイプⅠは84.9% (県 74.7%)、タイプⅡは69.9% (県 59.9%) の通過率になっている。この結果から、基礎的・基本的な学習内容については概ね定着していると考えられるが、一方で、学習した知識・技術を活用し、英語で表現する力については課題があると考える。
- 昨年度の課題への取組の成果  
昨年度は、「読むこと・書くこと」において、資料から情報を正しく読み取ったり、その情報を基にそれに関連する質問を考え、英文を書いたりすることに課題が見られた。そこで、次の点を工夫し、授業改善を行った。1点目は、長文の内容理解における発問の工夫や、キーワードに注目した読み取り活動である。2点目は、語彙力を伸ばすための帯活動の充実である。その結果、キーワードを意識した長文の大きな内容把握が意識できるようになってきたが、今年度の継続課題でもあるため、引き続き指導していく必要がある。(問題 11(1) 本校 54.5% 県 48.4%)

### 重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

#### 【課題1】「読むこと・書くこと」

◎ 英文と本文に関する表から根拠となる情報を読み取り、それを手がかりとして質問に対する答えを導き出すことに課題がある。

(問題 11(1) 本校 54.5% 県 48.4%)

#### 【課題2】「読むこと・書くこと」

◎ 文と文のつながりを考えて、自然な会話の流れになるよう適切な英文を書くことに課題がある。

(問題 11(2) 本校 64.2% 県 60.7%)

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

○ 英文と図表を見て、必要な情報を読み取る問題や、複数の英文を読み比べて情報をまとめる問題などを意識的に取り入れ、学んだ知識を活かして思考・判断・表現する活用力を伸張する。

#### 【課題2】

○ まとまりのある英文において、大まかな内容をとらえさせたり、事実発問と推論発問の仕方を工夫することで概要を把握させたりすることで読解力を伸張する。

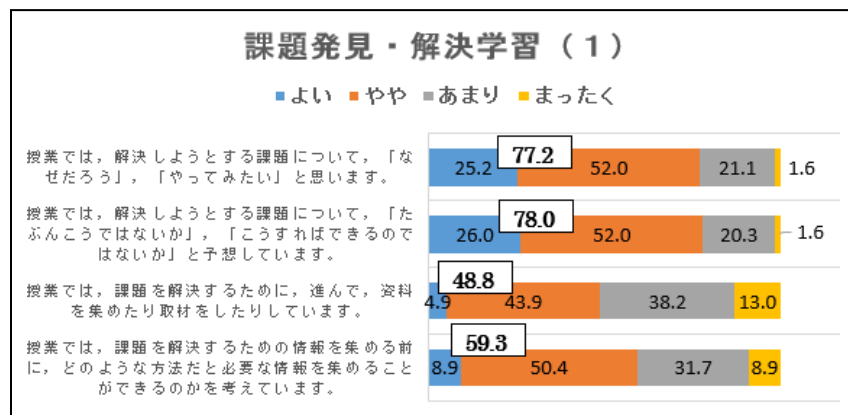
○ つながりのある英文を読む際に、本文についての英語での発問に英語で解答させたりすることで書く力を伸張する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2学年 2学期中間試験		2学年 2学期期末試験		2学年 熊野町標準学力調査		2学年 学年末試験
目標値	60.0%		65.0%		68.0%		73.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2学年 2学期中間試験		2学年 2学期期末試験		2学年 熊野町標準学力調査		2学年 学年末試験
目標値	60.0%		65.0%		68.0%		73.0%
実施後数値							

# 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

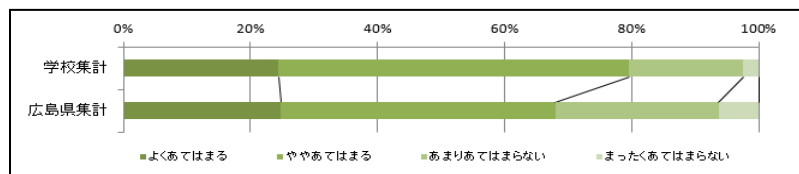
## (1) 生活・学習



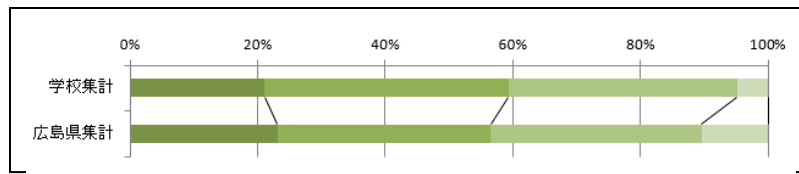
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
◎ 授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしている生徒が5割に達していない。（本校48.8% 県39.9%） ◇ 昨年度よりは良くなったが、授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと考えている生徒が多い。（本校62.4% 県59.8% 全国62.8%）	年間指導計画の見直しを行うとともに、「課題発見・解決学習」の単元開発をし、資料を集めたりまとめたりするような学習活動を仕組む。 少人数グループを活用し、お互いの意見を交流したり、考えを述べたりするような場の設定を行い、自信が持てるように指導をする。	全	55.0% 70.0%	生徒アンケート調査	1月		

## (2) 教科

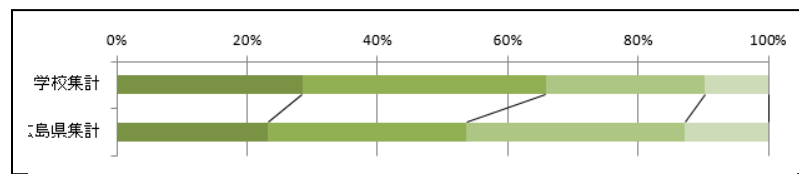
国語の授業では、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしている。



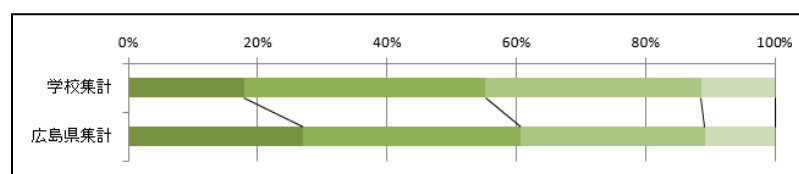
数学の授業では、自分の解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明している。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	◎ 国語の授業では、伝えたいこと、話の中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。（本校79.7% 県68.0%）	「聞く」の学習では、メモを取りながら必要な情報を聞き取る活動を行う。「話す」学習では、スピーチやディスカッションを行い、話の構成を考えて効果的な発表ができるように工夫する。	全	85.5%	生徒アンケート調査	1月		
数学	◎ 数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。（本校59.3% 県56.6%）	少人数グループで理由をあげて説明し合う活動を取り入れる。話型を示し説明の仕方を理解させたり、途中の式など説明の理由になるものをその都度記述させたりするなどの工夫をする。	全	60.0%	生徒アンケート調査	1月		
理科	◎ 理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。（本校65.9% 県53.7%）	仮説を立てる場面や、観察実験の結果から考察をする場面で、個人活動の後に班活動やペアワークを取り入れ、自分の考えを伝える機会を増やす。	全	70.0%	生徒アンケート調査	1月		
英語	◎ 英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。（本校55.3% 県60.7%）	即興性を意識した授業展開を取り入れ、新出表現使ってペアやグループで自分自身のことについて語る場面を増やす。ALTを活用し、生徒の意欲を向上させる。	全	65.0%	生徒アンケート調査	1月		